こうした取組を通じ,「心に残る一冊の本」と出会う読書のきっかけになるとともに，本の理解を深めることにつなげていくことが重要である。

本についての話合いや批評をすることは，読む本の幅を広げるきっかけとなったり，他者の異なる考えを知り，それを受容したり改めて自分自身の考えを見つめ直す経験ができたりするといった点でも重要なものである。

例えば既に以下のような取組が各地域で行われてきており，これらを参考に，必要に応じて高校生の時期の子供以外も対象としつつ，取組が行われることが期待される。

・読書会
　数人で集まり，本の感想を話し合う活動である。その場で同じ本を読む，事前に読んでくる，一冊の本を順番に読む等，様々な方法がある。この取組により，本の新たな魅力に気付き，より深い読書につなげることができる。
・ペア読書
　二人で読書を行うものであり，家族や他の学年，クラス等様々な単位で一冊の本を読み，感想や意見を交わす活動である。この取組により読む力に差がある場合も相手を意識し，本を共有することにつなげることができる。
・お話（ストーリーテリング）
　語り手が昔話や創作された物語を全て覚えて自分の言葉で語り聞かせ，聞き手がそれを聞いて想像を膨らませる活動である。直接物語を聞くことで，語り手と聞き手が一体になって楽しむことができる。
・ブックトーク
　相手に本への興味が湧くような工夫を凝らしながら，あるテーマに沿って関連付けて，複数の本を紹介すること。テーマから様々なジャンルの本に触れることができる。
・アニマシオン
　読書へのアニマシオンとは，子供たちの参加により行われる読書指導のことであり，読書の楽しさを伝え自主的に読む力を引き出すために行われる。ゲームや著者訪問等，様々な形がある。
・書評合戦（ビブリオバトル）
　発表者が読んで面白いと思った本を一人５分程度で紹介し，その発表に関する意見交換を２～３分程度行う。全ての発表が終了した後に，どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で選ぶ活動である。ゲーム感覚で楽しみながら本に関心を持つことができる。
・図書委員，「子ども司書」，「読書コンシェルジュ」等の活動
　子供が図書館や読書活動について学び，お薦め本を選定して紹介したり，同世代の子供を対象とした読書を広める企画を実施したりする活動である。自ら読書に関する理解を深めるとともに，読書活動の推進役となり，同世代の子供の読書のきっかけを作り出すものである。
・子供同士の意見交換を通じて，一冊の本を「○○賞」として選ぶ取組
　参加者が複数の同じ本を読み，評価の基準も含めて議論を行った上で，一冊のお薦め本を決める活動である。複数の本を読み込み，共通の本について自身の考えで話し合うことで，自分と異なる視点を知り，自身の幅を広げることにつながるものである。

また，子供の読書への関心を高めたり，読書の幅を広げたりするきっかけとなるよう，例えば，マンガやアニメ・ゲームといった本以外のものの内容や作者に関連した本から紹介することを含め，個人の読書経験や興味関心に寄り添いながら本を紹介する方法も有効であると考えられる。

Ⅵ　民間団体の活動に対する支援

１　民間団体の役割

民間団体は，子供の読書活動に関する理解や関心を高めるとともに，子供が読書に親しむ様々な機会を提供するなど，子供の自主的な読書活動を推進することに大きく寄与している。例えば，全国レベルでは，読書週間等のキャンペーン，読書感想文コンクール，家庭における読書を積極的に推奨する運動，全国各地を訪問して行う読み聞かせ，フォーラムの開催，読書活動に関する専門的知識を有する者の養成，子供同士で本を紹介したり話合いや批評をしたりする活動等が行われている。地域レベルでは，自発的に組織された約 9,000 のグループにおいて，草の根的に文庫活動，読み聞かせ等が行われている[26]。

[26] 平成 25 年度「全国読書グループ総覧」（公益社団法人読書推進運動協議会）